



道元禅師頂相／絹本着色／縦 97.5×横 52.2 cm／鎌倉時代 13 世紀／宝慶寺所蔵  
宝慶寺に伝わる現存する最古の道元禅師頂相である。上部の賛に、建長元年(1249) 8 月 15 日の中秋に際し永平寺で詠んだ偈が記される。

爽やかで、山が秋に老いるように老いている。仰いで天の星を見れば白い月が船付と輝いている。ものみな一つとして寄るものはなく、一つとして収めるものはない。ただあるがままの自分に生きて、粥飯を喫するだけである。が、そこに生き生きとした、始めと終わりを貫いた仏法がある。それが、天上天下に雲水として生きる自由さである。

この偈は観月の意味もあり、観月の像、月見の像ともいわれる。